

研究名：学童以上の重症アトピー性皮膚炎入院症例の悪化の背景因子と長期予後についての検討

1．研究の目的

アトピー性皮膚炎のプロアクティブ療法は寛解導入後もステロイド外用剤の定期塗布により再燃を予防し得る治療として推奨度が高いですが、小児重症アトピー性皮膚炎のプロアクティブ療法の長期予後の報告は少ない現状があります。

学童以上の重症アトピー性皮膚炎入院症例の悪化の背景因子と長期予後についての検討するために本研究を行います。

2．研究の方法

研究対象：当センターにて2008年1月～2013年12月に当科入院加療した学童以上のアトピー性皮膚炎児

研究期間：倫理審査委員会承認後～2022年3月

研究方法：該当患者さんの1、3、5年後の状態を診療録情報を用いて情報収集する。

3．研究に用いる情報の種類

1、3、5年後の状態を診療録情報（病歴、皮膚状態、検査データ（IgE、IgERAST、TARC）副作用等の発生状況、カルテ番号）

患者さんの氏名など、本人を特定出来る一切の個人情報は調査対象ではなく、個人情報は保守されます。

4．情報の公表

研究内容は学会発表や学术论文の形で公表する予定です。

5．研究実施機関

国立成育医療研究センター

6．お問合せ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、11月30日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立成育医療研究センター アレルギーセンター総合アレルギー科 宮地裕美子

住所：〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1

電話：03-3416-0181（内線：7791）

研究責任者：

国立成育医療研究センター アレルギーセンター総合アレルギー科 宮地裕美子